

平成25年度第2回川崎市政策評価委員会 摘録

- 1 開催日時 平成25年7月29日(月)午後3時30分～4時30分
- 2 開催場所 明治安田生命川崎ビル2階 第2会議室
- 3 出席者 委員 高千穂委員長、垣内副委員長、生駒委員、川崎委員、野口委員、
安陪委員、長尾委員、松田委員
事務局 総合企画局都市経営部 金子部長
総合企画局都市経営部企画調整課 中村課長
総合企画局都市経営部企画調整課 久万担当課長
総務局行財政改革室 三田村担当課長
財政局財政部財政課 斎藤担当課長
総合企画局都市経営部企画調整課
対馬担当課長、青木担当係長、小西職員
- 4 議事
 (1) 平成24年度施策評価の検証結果について
 (2) その他
- 5 傍聴者 なし
- 6 会議内容

議事(1) 平成24年度施策評価の検証結果について

高千穂委員長) 事務局の説明に対して、御質問、御意見等があればお願いしたい。

松田委員) 前回の委員会の各委員の意見をまとめてもらって、分かりやすくなったと思う。しかし一点、7ページの図2のグラフについて、示したい部分のウェイトが少なく、主張したいことが表現できていないと思うので、もう少し工夫してほしい。

対馬担当課長) 指摘を踏まえて表現を工夫したいと思う。

長尾委員) 図1については、上にある表を図にしたものであるという説明書きを入れた方がよい。図2の棒グラフについては、数字を見れば分かると思うので、なくてもよいのではないか。また、8ページの文中で「ア 検証項目・チェックポイント別の意見のうち「※」を付けているのは、判定が「要改善」になったものを含む」と記載されているが、要改善を含むということはどういう

ことか。

対馬担当課長) ここで記載した各項目は、各委員から実際にいただいた、いくつかの改善意見等をもとに、とりまとめた要旨である。もとになった複数の意見について、それぞれ判定結果が異なっている場合があり、その中に1つでも要改善の判定を受けたものがあれば、※印を付けたという意味である。今回の資料で※印を付けたのは、要改善の判定は重要であり、それを分かりやすく表現しておくべきと考えたためである。

高千穂委員長) ※印をつけているのは、どういったものが要改善になっているのか、イメージしやすいように表現している話であり、バックグラウンドが分からない市民がそれを見て分かりやすいかという視点が大事である。

川崎委員) 今年度の委員会意見の特徴としては、図2や改善意見を見ても、目標や指標の妥当性について要改善の判定やコメントが多くなっているのも、最終的に11ページに記載されている「(3) 目標・指標の明確化等の更なる推進」の根拠になるような見せ方にしないといけないと思う。

高千穂委員長) 目標の明確化については、川崎再生フロンティアプランに評価しやすいよう目標が記載されていれば、こういった問題は発生しないが、曖昧な記載もあるため、当委員会での指摘事項を踏まえて、フィードバックを着実にを行うことで、次期計画に反映させていってほしい。

対馬担当課長) 現在行っている次期実行計画の策定作業では、委員会での指摘を踏まえて、分かりやすさの向上に向け、今できることから取り組んでいる。

垣内副委員長) 色々な考え方があると思うが、要改善の部分が大事という事務局の考え方は理解できるので、※印で示すかどうかは別として、要改善が分かる形で表現してみてもどうかと思う。

図2は分かりにくい。図2で示したいことは、チェックポイント①が多いということだと思うので、それが分かるような見せ方にした方がよい。例えば、要改善全体のチェックポイント別割合を示すなど、色々な方法はあるかと思う。

また、委員長が度々発言しているように、帳票レベルの記載で所管課がどんなに頑張ったとしても、大元の計画がはっきりしていないと、限界があると思う。事務局としては、次の総合計画の策定において、評価の観点

から、どの程度踏み込むことができると考えているのか。

対馬担当課長) 次の総合計画については、今後の状況次第でどのようになるかわからないため、現時点では何とも申し上げられないが、一般論として、今後総合的な計画等を作成する際に、目標や指標を明確に記載していくという考え方は、事務局として受け入れやすいと思っている。

議事(2) その他

高千穂委員長) 事務局の説明(今後のスケジュール等)に対して、御質問、御意見等があればお願いしたい。御質問がないようであれば、本日の委員会が第4期委員会の最後となるため、各委員から一言ずついただきたい。

安陪委員) このような委員会に参加させていただき、大変光栄に思っている。度重なる委員会での議論を経て、判定基準を着眼点ごとのポイント制にするなど検証マニュアルを見直したことで、一市民が判断しやすいような形で、評価票が書かれるようになったと思う。ただし、まだ市民には分かりづらい言葉を使っていたり、目標と成果の整合性が取れていないものなどもあった。評価票を作成する各所管課においては、通常の業務とは違ったスタイルで評価票を作成することになり、手間が増えると思うが、市民にとって分かりやすいものになるということを理解してもらって、今後も分かりやすい評価票となるよう取組を継続してほしい。

野口委員) 今回は判定基準を大幅に見直して、完成度が高いものになったと思う。行政評価について、この委員会を通じて改めて指標の設定の難しさを感じていると同時に、市民目線で意見交換することで、これだけのものが作れたということを実感している。

その他、全体を通して、数値の表現について気になった。定義を明確にして表記を統一するということが、行政に限らず重要であると痛感した。ただし、2期4年間を通じて、全体的に表現が分かりやすくなったと思う。

生駒委員) 委員会でのさまざまな議論を通じて、評価票や検証の仕組みの分かりやすさが向上したと思う。今後に向けて、大事なことは、施策評価の対象となる計画に掲げる目標や指標の明確化であろう。今後、検討されるであろう総合的な計画において、進捗・成果確認にあたって妥当な目標設定として反映されることを期待している。また、この施策評価プロセスには、当委

員会の委員や行政職員の相当なエネルギーが結集されており、この一連のプロセスで培った分かりやすい書き方や表現については、属人的なものに
ならず組織の中でノウハウを共有していくことが大事であると思う。

垣内副委員長) この数年間の中で、説明が明確になっていると思う。自分が担当して
いる施策についても、数値的な指標が書き込まれるようになったのは格段
の進歩である。数字で表すことができない部分は、それに代わるような説
明も記載されるようになり、これは大きな成果である。

施策の成果説明については、分かりにくい部分があったが、今はスム
ーズに読めるようになった。これは、委員の意見を踏まえてマニュアルが整
備されたことによる効果だと思うが、今は担当者が代わっても同じような
成果を得ることはできると思う。

分かりやすくなって理解が進むと、目標の設定が不明確になっているも
のが気になるが、これも書きぶりが分かりやすくなったことの裏返しであ
る。

その他、同じような施策の重複が気になったが、これは委員会の所掌範
囲を超えているので、今後の計画等の見直し時に参考となるよう、総括的
な意見欄にコメントとして記載した。行政のメタ評価ということで最初は
戸惑ったが、作業を進めていく中で、市民目線で説明責任を果たしていく
という過程を拝見できたことは良かった。自分は、文化という目標設定が
しづらい分野を担当したが、今後文化芸術の向上は、こういった目標を立
てていけばいいかなど、自分自身としても勉強になった。

高千穂委員長) 4期8年委員を務め、当初と比べると、分かりやすさという点につい
てはかなり向上した。しかも行政側の担当者が代わってもこの分かりやす
さの視点が維持されていく流れを構築できたことは、自分としても若干の
達成感を感じている。ただ、この委員会を通じて、分かりやすさは高まっ
たが、それを市民にどう伝えるのかが現在も課題として残っている。ホー
ムページ等を利用して、分厚い冊子の情報だけではなく、簡単に要約した
サマリー版の報告書を出すことなどを委員会の提言として出せばよいと
感じている。次期の委員会では、これまで積み上げてきたものを今後どう
活かせるのかについて検討してほしい。今の分かりやすさの視点も
大事であるが、次の段階としては、政策評価委員会で培ったノウハウを今
後の計画作りに提案できれば、政策評価委員会への期待値が高まり、存在
意義も上がっていくのではないかな。

川崎委員) 分かりやすさという視点では格段に向上しており、ここ数年では分かりやすさというステージに関しては、ほぼ達成していると思われる。次のステージは、委員長や副委員長がおっしゃられているように、分かりやすくなったからこそ見えてくる課題があり、委員会等の意見を踏まえて、PDCAサイクルを活かして、計画策定などにフィードバックしていくことが必要になってくる。その他、市民委員と市民の視点で議論できたことは大変参考になり勉強になった。

長尾委員) 今まで川崎市に住んでいて、これだけ多くの施策があったことも知らなかったが、当該委員会を通じて多くの施策を知ることができたことに感謝している。最初この委員の委嘱を受けたときは、どういった方法で何をやるのか理解しきれていない状況でスタートしてしまったことを反省しているが、市民として施策を読んだときに腑に落ちて分かりやすい書きぶりになっているか、そこに重点を置いて作業を行ってきた。次回からは、新しい市民委員が参加すると思うが、要望としてこれまで8年間の政策評価委員会の変遷の中で、どのようにして現在の手法に至ったかということや次期委員会が始まる前に新委員に伝えてほしい。また、現在の冊子は、情報量が多すぎるため、分野別に分けるなどして見やすいようにし、市民が窓口で待っている際に手軽に読めるような形になるとより広がっていくと思う。

松田委員) 川崎市の政策はほとんど何も知らなかったが、この委員会で色々と勉強する機会を与えていただいたことに感謝している。市民委員として、期待される何割かの責任は果たすことができたと感じている。この委員会では、色々な意見を述べさせてもらったが、行政側の反応が良かった。そういった意味で委員としてのやりがいがあった。また、事務局も緻密な資料作成や細かい要望に対応してくれたことに感謝している。

最後になるが、せっかくこれだけのものを作成しているので、市民に対する公表方法を工夫してほしい。川崎市は自治会組織が機能しているので、簡単な要約版を作成するなどして、市民に対して市が行っている施策や成果をしっかりと広報して行ってほしい。

高千穂委員長) 最後に一言だけ加えたいと思うが、市民に対する伝え方として、学校教育の場に売り込んでいくなど、色々なアイデアも試して行ってほしい。

川崎委員) 市民委員の皆さんには、今後地域に戻られた際にこの委員会での取組を広めて行ってほしい。